

平成26年度 村上市小学校教育研究会体育部 活動報告

部長 小野 浩由

1 研究主題 「学習指導要領が求める体育授業のあり方を探る」

2 今年度の活動

- ① 地区代表部員会 研究主題設定・事業計画立案 4月30日（火）保内小学校
- ② 第1回体育部会 研究主題，事業計画確定 5月9日（金）村上総合文化会館
- ③ 第2回体育部会 指導案検討会 8月25日（月）マナボーテ村上
- ④ 第3回体育部会 研究授業 11月4日（火）平林小学校

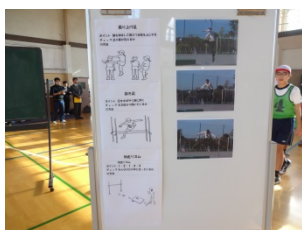
- 単元名： 走り高跳び（6学年）
- 授業者： 村上市立平林小学校 教諭 菅 祐毅
- 指導者： 村上市立村上南小学校校長 佐藤 強平 様

3 研究の実際

（1）研究授業について

授業者は、本時のねらいを「自分たちの課題を解決するために必要な場を選び、練習に取り組むことができる」とし、次の5つの手立てを講じて「走り高跳び」の授業を行った。

- ① 自分の課題に合わせて3つの場を選択し、ポイントを友達と見合い、できていたかどうか、判断基準を基に、アドバイスし合いながら練習する。
A「助走のリズムを身につける場」 B「振り上げ足を高くする場」 C「抜き足の場」
- ② ノモグラムを使って、自分の目標を明確にする。
 - ・ $110 + (\text{身長} \div 2) - (50\text{m走のタイム} \times 10)$ を目標記録とし、得点を決める。
 - ・ 毎回自分の記録を残していく。
- ③ ノモグラムの得点を競うグループ対抗戦を行う。
- ④ どのチームも同じくらいの成績（ノモグラムの得点）になるように編成する。



（2）協議会について

- ノモグラムや得点表を用いて個々のめあてを明確にして取り組ませることは有効であったか。
- 走り高跳びの学習においてグループ学習を行うことは有効であったか。
 - ・ノモグラムによる得点化は、個々の目標を明確にし、高跳びが苦手な児童もグループに貢献しようとする姿があり有効であった。
 - ・ノモグラムの目標値が高く、記録はよいのに得点で貢献できない児童もいた。
 - ・高く跳ぶための3つのポイントを授業者が絞って整理し、掲示することで、仲間へのアドバイスが的確になり、グループでの教え合いが積極的に行われていた。

4 成果と課題

- 指導案検討会や研究授業を通して、研究主題に迫ることができた。
- 村上南小学校の佐藤強平校長先生に指導者をお願いし、生涯スポーツの在り方に目を向けた体育授業の充実の必要性を再確認できた研修をすることができた。